

著者に聞く

日本型経営が 新たな進化を遂げて復活する

● シンクタンク・ソフィアバンク代表

田坂広志 氏

(たさか・ひろし)

ヘーゲルの弁証法から
未来を予見する

問 本書を書くきっかけとなったのは、今年の世界経済フォーラム(ダボス会議)においてだそうですね。

田坂 私は世界経済フォーラムの「グローバル・アジェンダ評議会」(Global Agenda Council)のメンバーも務めていることから、今年1月にスイスで開催されたダボス会議に参加しました。その会議の中でも印象深い発言をした一人の参加者がいたのです。それは、ジム・ウォリスというアメリカのキリスト教の牧師でした。彼は、イギリスのブレア前首相らとのパネル討議で、こう語りました。

「この危機はいつ終わるのか。そう問いかける人が



多い。しかし、我々が真に問うべきは、この危機が我々をどう変えるのか。その問いであろう。この危機はいずれ終わる。しかし、この危機によって我々が何も変わらない



これから資本主義に何が起こるのか——。いま、世界全体を覆う経済危機の中で、多くの人々がこの疑問を抱いている。本書では、その疑問に対してひとつの方向性と回答を記している。「今後、目に見えない価値を重視する成熟した資本主義に進化し、日本型経営が新たな価値を伴って復活してくる」。資本主義と日本型経営の進化を、哲学や歴史学などの広い視野と深い洞察力で語った経営者必読の一冊。

『目に見えない資本主義
貨幣を超えた新たな経済の誕生』
田坂 広志 著
東洋経済新報社 (1,600円+税)

が何も変わらないのであれば、多くの人々が味わった苦しみは、すべて無駄になってしまふ。その通りだと感じました。我々は

この経済危機を、世界の資本主義のあり方を深く見直し、新たな価値観や政治や経済のシステムを創造していく「絶好の機会」と捉えるべきでしょう。

問 では、今回の経済危機から学ぶべき教訓とは何でしょうか。

田坂 21世紀における資本主義は、どこに向かうのか。そのことを深く問い直すべきでしょう。しかし、その未来を予見するために役立つのは、実は、統計の技術でも予測の科学でもなく、弁証法の哲学なのです。これは、ヘーゲルを始め、多くの哲学者が語ってきた哲学ですが、この弁証法には5つの法則があります。そのうち特に役立つのは、「事物の螺旋的発展の法則」です。これは、「世界は、螺旋階段を登るように、上昇と回帰が同時に起こることによって発展する」という法則であり、「世界が発展するとき、古いものが新たな価値を伴って復活してくる」という法則です。

問 現代の資本主義も螺旋的発展の法則に沿って変化するのでしょうか。

田坂 その通りです。現代の資本主義は、この法則に従い、その土台にある「経済原理」に5つのパラダイム転換が起きています。それは、操作主義経済から複雑系経済へ、知識経済から共感経済へ、貨幣

経済から自発経済へ、享受型経済から参加型経済へ、無限成長経済から地球環境経済へという5つのパラダイム転換と、それによる資本主義の5つの進化ですが、特に重要なのは、貨幣経済から自発経済への進化です。

問 具体的にどういう進化でしょうか。

田坂 これまでの資本主義社会においては、貨幣の獲得を目的として人々が活動するマネタリー経済(貨幣経済)が圧倒的に主流でした。しかし、95年に起こったネット革命によって、善意や好意など「精神の満足」を目的として人々が活動する「ボランティア経済」(自発経済)が急速に影響力を増大しています。例えば、誰かが質問すると、多くの人々が無償で答えてくれるQ&Aサイトや、世界中から多くのコンピュータ技術者が集まり、基本ソフトの改良を無償で続けるリナックス・プロジェクトなど、ボランティア経済の事例が数多く生まれています。しかし、実は一方で、リナックスは、その周辺にシステムサービスの収益ビジネスを生み出しています。また、アマゾン・ドット・コムは、高収益ビジネスですが、そこで人気のある「草の根書評サービス」は、ボランティア経済が生み出したものです。この事例のように、これからは、ボランティア経済がマネタリー経済と融合して新たな「ハイブリッド経済」(融合経済)を生み出していくでしょう。

問 その進化はネットの世界だけではなく、他の経済にも広がるのでしょうか。

田坂 そうです。そもそも「ボランティア経済」は、昔から家事や育児、地域の治安や清掃などの活動と

して存在し、社会における重要な役割を担ってきました。しかし、資本主義の発展の中で、「マネタリー経済」が大きな力を持つようになり、ボランティア経済は永く「影の経済」の位置に置かれてきたのです。ところが、ネット革命によって、再びボランティア経済が勢いを増し、復活してきました。そして、意外に思われるかもしれませんが、このボランティア経済が復活する時代には、「日本型経営」や「日本型資本主義」と呼ばれるものが、新たな進化を遂げて復活してくるのです。

企業は、本業を通じて社会に貢献する

問 なぜ、今、日本型経営が復活するのでしょうか。

田坂 なぜなら、このボランティア経済とは、目に見えない価値や資本を大切にしている経済活動だからです。そして、日本型経営とは、まさに目に見えない価値と資本を見つめてきた経営だったからです。

すなわち、これからの時代には、経済原理が根本的なパラダイム転換を遂げ、資本主義そのものが大きく進化していきますが、その進化の結果求められるようになる「新たな価値観」とは、実は、かつて日本型経営において大切にされてきた「懐かしい価値観」なのです。

問 では、日本型経営の価値観とは何でしょうか。

田坂 それは、この3つの言葉に象徴されています。「企業は、本業を通じて社会に貢献する。利益とは、社会に貢献したことの証である。企業が多くの利益

を得たということは、その利益を使ってさらなる社会貢献をせよとの、世の声である」。この企業観や利益観こそが、日本型経営の真髄であり、世界に誇るべき思想でしょう。なぜなら、この言葉は、企業にとって社会貢献とは何か、利益とは何かという2つの問いに対して、明確な答えを示しているからです。日本型経営において、企業の究極の目的とは、どこまでも社会貢献です。そして利益とは、社会に貢献するための手段に他ならないのです。

もとより、日本型経営においても、経営者は利益にこだわります。しかしそれは社会に貢献するために一生懸命に働く社員の生活を支えるためであり、企業の将来を信じて投資してくれる株主に報いるためであり、世の中を幸せにする優れた商品やサービスを開発するためです。そして、その素晴らしい社会貢献企業を存続し発展させるためにこそ、経営者は利益にこだわる。これが日本型経営と日本型資本主義の企業観であり、利益観なのです。

問 では、日本型経営が、螺旋的発展の法則により新たな価値を伴って復活するとき、どのような進化を遂げるのでしょうか。

田坂 まず、日本型経営は、欧米型経営が持つ合理性や効率性を取り入れ、情報技術などの最先端のシステムを取り入れて復活してきます。しかし、同時に、日本が永い歴史の中で培ってきた「目に見えないものに価値を見出す文化」は、世界が学ぶべき文化となっていくでしょう。だからこそ我々は、この経済危機の中でも未来を見つめ、世界に先駆けて、進化の螺旋階段を力強く登っていくべきなのです。